

「馬鹿アタック」

—初稿—

2026/6/21

脚本 太郎

〈人物表〉

淀川 文夏 (17)
春野 紡 (17)
淀川 千春 (45)
種子島 望 (40)
黒須 哀 (21)
五十川 請 (21)

女子高校生
男子高校生
カルト教団信者。文夏の母
カルト教団教祖
種子島の側近
種子島の側近

1. 教団本部・外観（昼）

郊外の裏通りの片隅に立つ4階建てのビル。くすんだ灰色の外壁。1階部分のみ、カルトのシンボルマークなどが描かれ着飾っているが、他の階は手付かずの無味乾燥。古いビジネスホテルか何かを居貫きで買い取ったような印象。

2. 教団本部・地下一階・ホール（昼）

入口はクレモンハンドル付きの重厚な防音扉。学校の教室の二倍くらいの広さ。

中央に、スポットライトに照らされた巨大な御神体の石が置いてある。

石の前に、教団の教祖、希望の星太郎こと種子島（40）、その両脇に側近の黒須哀（21）と五十川請（21）がそれぞれ立っている。

信者たち、防音扉を重そうに開けてゾロゾロ入ってくる。その中に、淀川千春（45）と淀川文夏（17）もいる。

男性信者「希望の星太郎先生、本部の秘儀に呼んでいただきありがとうございます！ 光栄の限りです」

種子島、右手を上げ、にこやかに、

種子島「いいよいよ」

女性信者「今年こそは無常凱旋の極意をマスターしてみせます！」

種子島「いいよいよ」

千春「わたしは今年中に肉体を巡るエネルギー、ルンの制御をマスターして見せます！」

種子島「いいよいよ」

千春「そして上位思念体、背徳精霊との接触を果たし、ゆくゆくは第一階層への転生へと至る所存であります！」

周囲でどよめきが起こる。

千春、誇らしげ顔。

文夏、嫌そうな顔。

種子島、千春の肩に手を置き、

種子島「いいよいよ。修行だけじゃなくお布施もしっかりね」

千春、泣きそうな顔で喜ぶ。
文夏、目をぎゅっと瞑る。

× × ×

信者たち、音楽に合わせて奇怪な踊りをしながら石の周りを回っている。

文夏、逡巡した様子。

種子島「皆いいいいいよ」

文夏、意を決したように駆け出す。

千春「文夏、どこ行くの？」

文夏、立ち止まる。

振り返り、目を泳がせて、

文夏「ト、トイレ」

種子島「いいいいいいいよ」

文夏、再び駆け出す。出口に向かう。

3. 教団本部・地下一階・ホワイエ(昼)

古びたホワイエ。奥にホールに続く防音扉がある。

文夏、防音扉を重そうに開けて出てくる。

駆け出す。

4. 教団本部・二階・倉庫(昼)

天井の低い6畳くらいの部屋。

文夏、ドアを開けて入ってくる。

ドアの正面に腰高の窓(すりガラス)があり、傷んだマットレスが窓際に接するように積まれている。

ドア脇の壁沿いには廃材や古い段ボールがいくつも置かれている。

壁や床の表面はところどころ痛んでいる。

全体的に汚れていて埃っぽく、放置されたゴミ置場のような感じ。

文夏、部屋を見回して少し微笑む。

5. 裏路地(昼)

春野紡(17)、無然とした不機嫌そうな様子で歩

いている。背中には重そうなりユックサックを背負っている。両手には軍手をはめ、ボールを持っている。

6. 教団本部・二階・倉庫（昼）

文夏、廃材を漁っている。

7. 空ビル・外階段前（昼）

テナント募集中の空きビル。隣にあるのは教団本部である。外階段と教団本部ビルの外壁までの距離は1メートルもない。

春野、外階段の入り口を開けて足を踏み入れる。

8. 教団本部・二階・倉庫（昼）

文夏、段ボールの間からホコリまみれの荷造り紐を引っ張り出す。
首に当てがう。

じっくり来ないといった様子で首をかしげる。

9. 空ビル・外階段（昼）

春野、外階段を登っている。

10. 教団本部・二階・倉庫（昼）

文夏、廃材の間からボロボロの延長コードを引っ張り出す。
首にあてがう。
じっくり来ないといった様子で顔を顰める。
溜息。

11. 空ビル・外階段・二階踊り場（昼）

春野、手すりから身を乗り出し、ボールを振りかぶる。

12. 教団本部・二階裏側・外觀（昼）

表より老朽化がひどい。二階の端の窓、柵が錆びついている。

春野の振り下ろしたボールが、その窓の柵に当たる。
衝突音。

13. 教団本部・二階・倉庫（昼）

外から衝突音がする。

文夏、驚いてビクツとする。

手にしていた延長コードを落とす。

外から、今度は何か落下するような音がする。

文夏、悲鳴を上げる。

再び、外から衝突音。

文夏、狼狽して辺りを見回す。

激しい破碎音と共に窓ガラスが割れる。

文夏、悲鳴を上げて腰を抜かす。

窓に開いた穴から春野の手が出てくる。

春野の手、クレセント錠を開け、窓をスライドする。

文夏、後ずさり、廃材に背をぶつける。

春野、窓辺をまたいでマットレスを踏む。

床に飛び降りる。

2、3歩よろめく。

文夏に気付くと舌打ちを零す。

春野 「何だよ人居んのかよ。いきなり計算外だ」

文夏、困惑しきって、

文夏 「何なのあなた？」

春野、苛ついた様子で、

春野 「こっちの台詞だよ。人に名前訊く前にまず自分から名乗

れって、小学校で教わんなかった？」

文夏 「あ、えと……わたしは——」

春野、気にせず文夏をさえぎって、

春野 「君もここの信者なの？」

文夏、咄然とする。

春野、苛ついて顔を顰める。

春野 「頭の回転鈍いな。訊かれたことには早く答えなってる」

文夏、慌てて首を振る。

春野 「あっそ。じゃあ良いわ、どうでも」

春野、さっさと出口に向かう。

ドアノブに手を掛けたところで勢いよく振り返る。

文夏をビシッと指さす。

春野 「良いか？ 邪魔だけはするなよ？」

文夏 「は、はい……」

春野、すぐ興味を失ったように体の向きを戻し、ド

アを開ける。

文夏 「あ、あの」

春野、苛立って唸り、舌打ちしながら振り返る。

春野 「なんつだよ今出てくところだよ！ 空気読めないのか？」

文夏 「ご、ごめんなさい」

春野 「で、何だよ？」

文夏 「えと、何をしに……来たんですか？」

春野、不敵そうに笑うと

春野 「この奴らが崇めてる神様を、滅茶苦茶にしてやるんだ

よー」

文夏、咄然として固まる。

春野、訝しげに文夏を睨む。

さっさと倉庫を後にする。

文夏、ぼーっとしてまばたきを繰り返す。

春野がいないことに気付き、急いで駆け出す。

14. 教団本部・二階非常階段(昼)

文夏、急いで駆け下りる。

背後で防火扉が閉まる。

15. 教団本部・地下一階・ホワイエ(昼)

春野、ホワイエを真っすぐ駆ける。

ホールの防音扉に手を掛ける。

春野、入室。

信者たち、訝し気に春野を伺っている。

春野、リュックサックを前に回す。

文夏、入室。

春野、リュックサックから、細長い長方形の金属プレートが縦に二つ並んだ、五〇センチほどの巨大な筐体を取り出す。

左側面後端のバッテリーパックと、背面に空いたスリットへ向けて、グリップの根本から赤黒のリード線がぐるりと伸びている。

文夏、驚いて、

文夏 「え何それ？」

春野はリュックから横二列に整然とロケット花火が飛び出した金属プレートを取り出し、筐体背面のスリットへとガシヤコンと押し込んでから、大真面目な顔で応じる。

春野 「ロケット花火ランチャーレールガンスペシャル」

文夏 「は？」

春野はリュックを放り捨て、ロケット花火ランチャーを前方に向けて構える。

その銃口の先には、スポットライトに照らされた石と信者たち。

ざわめきが起こる。

春野の指先がロケット花火ランチャーの引き金を引く。

春野、大声で、

春野 「金返せー！」

一瞬、火花の散るような音。

直後に大爆音を響かせ、数十発のロケット花火がほぼ同時に射出される。

「うおおおっ」

春野、反動に負けてロケット花火ランチャーを跳ね上げさせてしまう。

ロケット花火たちは春野の腕の軌道に沿って火花のラインを引くように天井に着弾していった。撒き散らされる白煙。

天井からは摩擦音と共に剥がれた建材が降り注ぐ。同時にあちこちを金属がバウンドする音。

人々の悲鳴に混じって散発的な花火の破裂音が鳴り響く。

白煙が晴れ、パニックになった信者や教団スタッフたちが一斉に押し寄せてくるのが露わになる。

皆、ロケット花火ランチャーを持った春野のことは避けるが、その場に屈んでいた文夏のこととは容赦なく踏んで逃げていく。

御神体の石は無傷。

天井のクリプトン電球から注がれる琥珀色のスポットライトが、降り注いだ建材の粉塵を反射して光の柱のようになっていく。

建材まみれの春野は怒りで震えている。

「糞があー！ 全部外れやがって！ ポンコツがよお！ こんなモンもういらねえよ！」

春野はロケット花火ランチャーを何の未練もなく床に叩きつける。

そして、御神体的な石に向かって駆け出す。

春野 「てめえが神か？ こんな糞みてえな世界作りやがって！」

黒須、五十川がホール脇から掛けてくる。

春野を二人がかりで組み伏せる。

春野が憎悪の籠った叫びをあげる。

種子島、憎悪の籠った眼で春野を見下ろす。

文夏、茫然とその様子を見ている。

終